



受難の主日 (マルコ 15:1-39)

だれが何を取るかをくじ引きで決めた

受難の主日、聖なる一週間が始まりました。イエスがいのちをささげて人間の救いを全うされます。わたしたちは自分では天の国にたどり着けないと、この一週間ではっきり理解し、より頼む心を増しましょう。

本日のマルコによる受難の朗読の中で、わたしは兵士たちが取った行動を深く心に刻みたいと思います。「兵士たちはイエスを十字架につけて、その服を分け合った。だれが何を取るかをくじで決めてから」(15・22)とあります。十字架に架けられたイエスのむごい姿と、イエスには全く関心がなくて、むしろイエスの着ていた衣服に興味があった兵士たちとのきわめて対照的な姿を刻みつけたいのです。

イエスの姿は確かにむごたらしいのですが、わたしは、イエスのことを気にも留めず、着ていた衣服を奪い合う兵士たちの無神経な姿が、より一層むごたらしく感じます。死にゆこうとする一人の人間よりも、兵士の目に留まったのは着ていた衣服だったのです。釘で十字架に打ち付けておきながら、はぎ取った衣服の方に興味があったのです。

兵士の姿を見て、何と無神経な人々だろうと、皆さんは心を痛めるのでしょうか。わたしたちは、兵士たちの愚かさを笑えるのでしょうか。むしろ、兵士たちの愚かさは、わたしたちの愚かさを鏡で映しているように思えないでしょうか。なぜならわたしたちもまた、イエスが十字架にかけられていることよりも、自分の興味関心を優先することがあるからです。イエスが祭壇上でいけにえの子羊になっていても、ある場合は別のことに興味関心を持っているときがあるからです。

そこで、目の前の出来事から目をそむけないで考えましょう。わたしたちはイエスが十字架にはりつけにされているそばで、それ以外のことに気を取られたり時間を取られたりしていることを正直に認めましょう。だれが何を取るかをくじ引きで決めることさえする、そんな愚かな人間であると認めましょう。弱さを認めてこそ、わたしたちの弱さをご存知であるイエスがわたしたちを救ってくださるのです。

もっと踏み込んで言いましょう。あなたは、イエスの何を取りますか。あなたがイエスの着物を取ると言うのなら、わたしは着物を着ていないイエスを取らしましょう。つまり、世の人々が対面を装うための着物を争って取り合うと言うのなら、わたしたちキリスト者は着物をはぎ取られたイエスを取りますと、態度を決めてほしいのです。

もちろん、わたしたちは弱く貧しく、愚かな面を持っています。考え抜いて取るべき態度に思い至っても実際には行動しないことがあります。イエスがこんな弱いわたしたちのためにいのちを投げ出してくださいます。着るものを取り上げられて、みじめな姿をさらしてでも、わたしたちの救いのために自分をささげてくださいます。今は感謝して、イエスの前にひざまずきましょう。せめてイエスのそばにたたずんで、見守ることができるよう、恵みと力を願いましょう。